

「元気が一番」塾

2007.1.20 優しい風 (Loving-wind) 仲島

「一人ひとりを生かす班づくりの工夫」

1. なぜ班をつくるのか、なぜ小集団にするのか

- ・一斉学習では埋没してしまう子どもも生きてくる。
- ・人数が少なくなると「話しやすく」「考えやすく」「わかりやすく」なる。
- ・教師から子どもへの一方通行の学習から、子ども同士の相互通行の学習になる。
- ・助け合う、協同の心が育っていく。「学習づくり」「仲間づくり」に生きていく。
- ・自由になんでも言える温かい雰囲気（支持的風土）を生んでいく。

2. 班長はつくるのか、つくらないのか。 かつての「2つの集団づくり論」から考える。

- ・吉本 均・・・班長を中心とした小集団づくり・・・班競争、ビリ班
→班長を育てる→班長から班員への流れ（統制、管理）
- ・片岡徳雄・・・一人ひとりを中心とした集団づくり・・・一人一役
→誰もが班長、誰もが班員（自主、自由）
- ・班長はどう選ぶのか？班長は誰でもできるのか？どんな子が班長になるのか？
 - ・指名、投票、抽選、輪番・・・
 - ・勉強ができる子？運動ができる子？リーダーシップがとれる子？

3. 班の人数はどうするか？ どう決めるか？ 班替えはいつするのか？

- ・一人ひとりが生きてくる人数とは？ アメリカのアポロ宇宙船の乗員の人数は？
- ・班の決め方は・・・教師が決める、子どもが選ぶ、抽選・・・。
- ・班替えの時期は？ 短期間では育たない。最初はうまくいかないのが当たり前。

4. 小集団がよくて、大集団が悪いとは限らない。

- ・「みんなの前では発表ができないから、まずは班で話し合い」という学習を安易に続けていくなら、結局子どもは育たない。みんなの前でも発表できる力を育てる。
- ・小集団に限定すると、かえって窮屈になることもある。臨機応変に対応する。
- ・「小集団での協同」と「大集団での協同」が相互に高めあうように。

5. その他いろいろ

- ・生活班、体育学習班、遠足班・・・いろいろな種類が多すぎると育たない。
- ・好き嫌いはある、でも誰とでも一緒になって過ごす経験も必要である。
- ・班ノートの活用も子どもを育てる。

※ 今後の予定

- ・2月17日（土） 橋本裕史先生の授業を斬る～研究授業のビデオと指導案から～
- ・3月17日（土） ・4月の学級開きの工夫 ・養護学校での学び（片山康宏）